

第29回都市公園コンクール（一社）日本公園緑地協会会長賞 受賞作品の概要

設計部門（小規模）

受賞作品：菊池市憩いの森公園
公 園：憩いの森公園
所 在 地：熊本県菊池市
受賞団体：菊池市



「集いの広場」から記憶の広場を望む

菊池市泗水町吉富地区富の原に整備された敷地面積2.2haの憩いの森公園(近隣公園)の設計である。

地域の方々が日常的に集まり、知らず知らずのうちに地域の自然や歴史・文化を知り、未来へとつないでいくことを目指した設計方針が評価された。

設計部門（小規模）

受賞作品：向山古墳群公園
公 園：向山古墳群公園
所 在 地：静岡市三島市
受賞団体：株式会社オオバ
三島市



三島市南西部にある向山古墳群(平成11年県史跡に指定)の公園で、学びながらゆったりと時を過ごせる史跡づくりをテーマとした設計を行った。

楽しく散策できゆったりと滞在できる空間づくりや適切に保全しつつ学ぶことのできる展示方法の工夫などが評価された。

造園施工部門（大規模）

受賞作品：殿町第2公園(その2整備区域)の施工
公 園：殿町第2公園
所 在 地：川崎市
受賞団体：西武造園株式会社、
独立行政法人都市再生機構
東日本都市再生本部



良好な植栽基盤を実現した結果、竣工4ヶ月後の7月には、豊かな緑に覆われた。

川崎市殿町3丁目に整備された街区公園のその2整備地区の施工である。河岸盛土造成地に良好な植栽基盤を造成し、竣工時点で芝が完成形で実現されたこと、適切な安全・環境配慮・コミュニケーションの形成に適切に対応したことが評価された。

第29回都市公園コンクール（一社）日本公園緑地協会会長賞 受賞作品の概要

材料・工法・施設部門（材料・工法）

受賞作品：基盤整備作業機(FTM)を用いた
「造園式芝生除染・更新工法」

公 園：千葉県立柏の葉公園

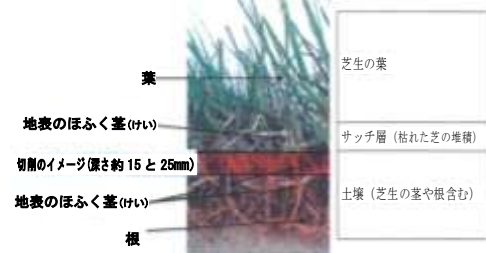
所 在 地：千葉県柏市

受賞団体：株式会社新松戸造園

東京農業大学地域環境科学部

造園科学科都市緑化技術研究室

一般社団法人千葉県造園緑化協会



芝生の断面図



FTMを用いた除染作業

「造園式芝生除染・更新工法」による芝の除染である。

東日本大震災の原発事故に伴う放射性物質で汚染された芝生地を除染について、緑地を根こそぎ剥ぎ取る事なく、緑の果たす公益的機能を継続的に維持し、緑の保全と除染を両立させた工法が評価された。

材料・工法・施設部門（大規模施設）

受賞作品：カラス天狗アスレチック

公 園：任王道公園

所 在 地：鳥取県西伯郡山町大山町

受賞団体：大久保体器株式会社



カラス天狗

大山の守護神「大山烏天狗」をシンボルにした

ダイナミックな回廊型木製風アスレチック遊具である。

わんぱく修行僧が崖登り、谷渡りするように、遊びを通じて修行を積み重ね、大自然の中的での体力づくりやふれあいの心を育む施設であることが評価された。

管理運営部門

受賞作品：地域連携を具体的に実現した
公園マネジメントの実践

公 園：吉野ヶ里歴史公園

所 在 地：佐賀県神埼郡吉野ヶ里町

受賞団体：一般財団法人公園財団



たいまつ行列（南内郭）

吉野ヶ里歴史公園の管理運営である。公園や地域のポテンシャルを生かした各種イベントを開催・誘致し、新たな公園や地域の賑わいを創出する取り組みである。

地域社会との連携、協調が図られている公園管理のモデルケースとなりえることが評価された。

第29回都市公園コンクール（一社）日本公園緑地協会会長賞 受賞作品の概要

企画独創部門

受賞作品：愛・地球博記念公園「あいちサトラボ」

公 園：愛・地球博記念公園

所 在 地：愛知県長久手市

受賞団体：株式会社オオバ

愛知県

あいち県立芸術大学美術学部

デザイン・工芸科水津研究室

公益財団法人愛知県都市整備協会



取り組み事例

愛・地球博記念公園「あいちサトラボ」における県民協働による公園づくりと公園利用者と行政とのパートナーシップによる公園管理運営である。

営農活動の実践により、里山づくり活動の知識向上を図り、体験プログラムの運営を通じて実践力と組織力の向上に取り組んでいることが評価された。

第29回都市公園コンクール 審査委員会特別賞 受賞作品の概要

企画独創部門

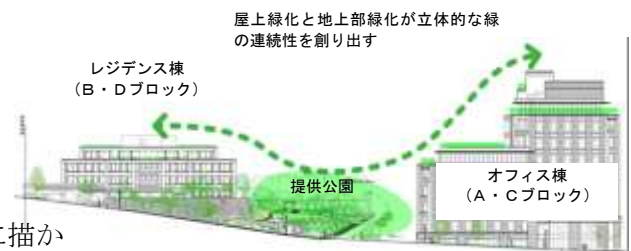
受賞作品：御殿山プロジェクト

所 在 地：東京都品川区

受賞団体：積水ハウス株式会社

株式会社日建設計

大成建設株式会社一級建築士事務所



立体的に連続する緑の景観

御殿山は江戸時代から桜の名所として浮世絵に描かれてきた場所でもあり、その品格ある土地を醸成してきた崖地形のあり様を力強いランドスケープで取り戻し「御殿山の原風景」を再生することを目指したオフィス、レジデンス、提供公園といった施設からなる総開発面積約3.0haの設計である。

敷地は、その大部分が斜面であり、法面や擁壁を多段に組合せた地形構造を自然石や植栽でダイナミックに被覆することにより東西に連続する御殿山の原風景としての崖線の景を再現し、地上の緑と立体的に連続する緑の景観を形成した。

今後この地域の自然再生や生態系ネットワークの一拠点を形成し、都市再生を果たす布石となること期待する。



秋にはヤマモミジ等が崖線を彩る